

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成27年 4月11日
(33号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
文責 事務長 宮本眞弓

人間学講座
第33講

「神話に学ばよまとのこころ」

寺岡 賢先生



■ 百万の縁者

なぜ日本は明治時代、あれほどまでに発展することができたのか。神道とはなにか。

天皇とはどういう存在か。日本の元にある武士道とはなにか：それに対し私たちは何一つ教えられてきていないし、答えを持ち合わせていない。だからこそあらためて、伊勢を通じて日本という国を知る、ということが大事なのです。

伊勢神宮ではご存知のように、天照大神をお祀りしています。今の天皇陛下は125代目の天皇です。私たちには父母があり、その父母にも必ず父母がそれぞれいる。そうやってずっと20代まで遡っていくと、横のつながりだけで百万人となります。さらに、27代まで遡るとなんとその人数は一億を越します。一億ということは、現在の日本の人口と同じです。日本人は、みなどこかで繋がっていると考えるがあり、皇室を本家として、国民はみんな分家ではないかとされたのです。つまり、「皇室のご先祖様である天照大神さまは、私たちのご先祖である」と。そのようなことから伊勢の神宮は国民にとってもっとも大事な神社であり、お社であるとされてきたわけです。

■ 幸せの種

米の種を蒔けば米の実が実り、麦の種を蒔けば麦の実が実る。誰でも知っている当たり前のことだ。それなのに幸せの花ばかり祈っている人がいる。それではいつまで経っても幸せになることはない。花を摘むより種を蒔く。そのことを忘れてはならない。

私たちは幸せを願いつつ、つついといライラし

た言葉を投げつけたりしています。幸せになりたいのなら、自分からその種を蒔くしかない。「嫌なことがあったとしても、自分が至らなくてごめんなさい。生かしてくださりありがとうございます」と、感謝の言葉に変え、一日の終わりに休むことで、感謝の根が伸びていく世界があるのではないのか。

いのちの流れが川の流れるようなものだとして、川上に汚いものがあれば流れてくるわけですから、自分が歩いたことで少しでもきれいになるようなことを実践してゆく。このような勉強会での学びは、自分の将来のみならず、次の世代への種まきのように思えます。

よしあしの中を流れて清水かな

日本人は敵味方あったとしても、最後は受け入れてきた民族です。

良いことと悪いことを両方知る中で私たちは人になつていく。良いことばかりの人生だと高慢になるだろうし、悪いことばかりの人生も自信のない弱いものになるだろう。喜ぶるときに喜ぶのは、誰でもできること。大切なのは、喜べないとき、辛いとき、悪いと思えることがおきたときにどう受け止めるか。偶然は必然です。選べる世界の裏側に選べない世界がある。

今日ここに来られているのは選んできておられるけれど、そこで誰に出るか、どういう時間をすごすかは選べない。選べないことがほとんどで、偶然の偶然は必然の世界なのです。

苦を喜ぼう

苦をいただいてゆこう

苦をやまことばで言う

うと数字の「九」です。九を通して十になる。十は満ち足りた数字です。



九を通して十にいったとき、十と九で「とく」。

「とく」は「徳」であり「得」でもある。どんなに大きな企業で利益を目指していても、徳の無い会社は必ずつぶれる。また逆に零細企業であっても徳があれば永續できるのではないのか。苦を尊んできたのが日本人ではないのか。

苦をいただく、ということとは、目の前の人、そして足元で起きたことをどう受けとめるかに繋がっています。

■ 「磨くは、身が苦」

ありがどうの反対はあたりまえである

小さなひとつひとつにありがどうの心を持たなかつたら、すべて当たり前の世界になってしまう。朝起きてご飯を食べたり、働く場所があつたり、家族と過ごせたりすること。

すべてを感謝し 常に喜び たえず祈る

これこそが、人として生きていくとき大切にすべき姿ではないかと思えます。とはいえ、これはなかなか難しい。とにかくそう思おうとすることが重要です。向かい風が吹いていたのでは、どんなに努力しても決して船は進みません。けれどもそれが追い風ならあつと言う間に向こう岸に着くことができる。そのためには、追い風をいただくための帆をはる必要があります。その帆とはなにか。それは感謝の帆です。

磨くという言葉は、「身が苦」。苦しいことの無い人など一人もいません。何かが起こったとき、それを他のせいにするのではなく、受け入れてゆくことにより、この身が磨かれてゆく。

伊勢神宮は祈りによって支えられてきました。祈りの中心は穀物への祈りです。歴代の天皇陛下にとつて一番大切だったのは、国民の命を守り抜くということでした。お米への祈りを通じて、国の発展、国民の幸せを祈られたのです。

(抄録 中川千都子)

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成27年 4月11日
(33号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
文責 事務長 宮本眞弓

人間学講座
第34講

「人生二度なし」
——先師に導かれて——

寺田一清先生

一 森 信三先生の歴史的業績

(1) 国民教育者の師父

(2) 日本的哲学(全一学)の創開

(3) 「人生二度なし教」の教祖・「生き方」宗の宗祖

二 真理は現実の唯中にあり

三 「人生二度なし」の一度きり・一人きり

四 日常生活の三原則

(1) 飯菜別食

(2) 半身入浴

(3) 無枕安眠

五 三つのしつけ

(1) 朝のアイサツ

(2) ハイッの返事

(3) はきものを揃える、立ったらイスをおさめる

六 「立腰」の教え 身心相即の原理

七 日常実践の五カ条

(あ) 朝のあいさつ人より先に

(す) すまいるステキ 而今ニコニコ

(こ) 腰骨立てて 一意専心

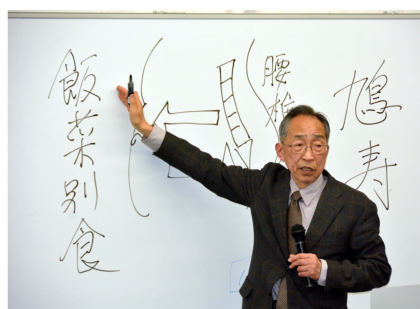
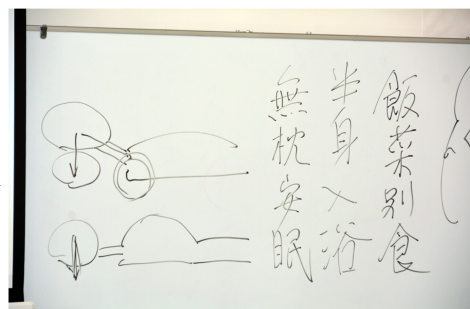
(そ) 掃除の偉力 職場再建

(は) はがきの活用 ご縁の継続

八 親孝心「親から受けた恩の有無厚薄を問わぬ。

父母即恩である」

九 夫婦のあり方 肯定 肯定 絶対肯定



寺田一清先生のお話を伺って

(K生)

寺田先生が、森信三先生の教えを伝え続けて約五十年ということに、とても驚きました。本当に森先生の教えを守り、先生のことをとても尊敬していることがお話を聴いて伝わってきました。

授業の中でもやったように、「日常生活の三カ条」は、本当に大切だと思います。あたりまえのことですが、あたりまえに全部できる人は同世代はなかなかいないと思います。朝のあいさつを元気よくすることは、小学校ぐらいの時までは堂々とできていたが、年を重ねて行くにつれて、しなくなっていくのが現状です。大人になっていけば行くほど、人間の基本的な生活の動作など、教えてくれる人はいなくなっていくに近いです。

「人生二度なし」のように一度しかない人生で、巡り会える人々は、奇跡に近いことです。今回の人間学塾での出会いには、普段の生活をしていては出会えないみなさんですので、本田先生のゼミナールに入って良かったと思いました。寺田先生のような年齢の方は、自分の祖母や祖父以外に話す機会などないので、人生の実体験をそのまま言葉で伝えてくれたので、とても説得力がありました。

みなさんは、なぜ人間学を学ぼうとしたのか。自分直しのためであり、人間力を磨き社会をよくするということですが、自分のためだけでなく、社会全体を考えている人が、人間学塾の中にいることが凄いいと思います。人が嫌がっていることを自分が受けるという考えも納得しました。見返りの求めない行動だと思いました。

どのような女性が魅力的かという質問に対して、ハートが美しい!!という言葉に心を打たれました。礼儀や姿勢などとはもちろんのこと「ありがたいございます」の言葉がきちんと言えるということが魅力的な女性ということですね。その言葉を聞いて、なるほどそういう女性のことなのかと思いました。ハートが美しいという表現がとても好きなので、立ち振る舞いなど、日常の生活からそういう部分を出していけるように、ハートが美しい女性になりたいと強く思いました。

寺田先生のお話を聴いて、人間学塾で森信三先生の教えのもと、塾生同士で学びあいを広げ何歳になっても勉強する姿勢があり、人生の先輩から直接学び取ることができました。勉強は大学生までと思っていましたが、社会人になっても、何年経っても一生人生に勉強はつきものだと思いに思いました。

(考察抄録)



塾生43名・聴講5名・本田ゼミ学生35名 「金沢星陵女子短期大学部キャンパス」にて

春季宿泊研修は、三月十四〜十五日北陸新幹線金沢開通日と重なり大変な混雑でしたが、金沢より入塾の本田実、西田京子両塾生の準備により、金沢星陵女子短期大学部キャリアデザイン館の教室を一日お借りして開塾いたしました。



ん！この方は？高校野球時代の松井秀喜さんの監督山下智成さん。も、聴講参加



《學塾・中之島に参加しての考察》(抄録)

(Y生)

「人間学塾・中之島」の講座に参加して、いままで本田先生から学んだことがもつと詳しく解り、普段考えないことを沢山学ぶことができました。参加されている方々の貴重なお話が聞けたことは、何かのご縁だと思っています。これからの人生にプラスになるように繋げていきたいです。見た目だけが大事なのではなく、心から美しい女性になれるようにこれからも頑張ろうと思えました。

(O生)

まず思ったことは、参加している方たちの姿勢や心が素直というか凄く良いなと思いました。誘導をしてあいさつをしていると、笑顔であいさつをしてくれて、優しく話しかけてくださり、とても嬉しかったです。話では、本田先生のゼミで学んだ言葉もたくさん聞くことができました。反抗期の話では、まずは自分がなにをしているのか、反抗期だと自分で自覚することが社会をより良くしていくし、より幸せに近づいていくと話していました。講師先生方のためになる話を聞いて、みなさんの周りへの感謝の気持ちが凄く強いと思いました。たくさんさんの成長できる種を蒔いてくれたので、私たちがこれから良い花を咲かせられるように頑張っていこうと思いました。

(S生)

参加されている方々の姿勢は、きれいで背筋がピンツとしていました。あと片付けの時もみなさんでなさってくれました。人間学を学んでいるからなのか、それとも人間学を学ぼうとしているからなのか、どちらだろうと考えた時に、私たちはまだ未熟者ですがイスを入れることはしています。みなさんからあいさつを返してくれない人はいないというよりは、進んでしてくれることが多かったと感じました。私はみなさんのそんな姿から、人前だからとかではなく、自然とその素敵な姿でいられるような人間になりたいと思いました。

(M生)

私たちの質問に気さくに、けれど真剣に答えてくださり、感動いたしました。真っ直ぐ前を向き背筋を伸

ばして聞いているお姿を後から拝見し、見習わなければならぬと感じました。質問の中で一番印象に残っているのは、反抗期には背景があり、それを考えることが大切だと知り、それが成長につながるのだと思うと、大人になるための一歩なのだと感じました。以上のことをふまえて、ただ素直にお話を聞くだけでも成長したようにも思えました。聞いた話を考えて、それを行動(実践)に写すことが大切なのだと思ひました。

(I生)

中年の方から高齢の方まで大人世代が多く、とても積極的に参加され、何より一人一人が人当たりのいい方ばかり、雰囲気も良く、人間的に素敵な方たちだと思いました。この会に参加させて頂いて、価値観がまた広がり新たな学びを、自分を、見いだすことができました。知ることの楽しさ、考えることの楽しさを知り、素晴らしいことを学びました。

(Y生)

参加している方々の姿勢を見て、とても真剣に聞いて学ぼうとしている気持ちが良い伝わってきた。質問にも真面目に答えてくれて、さすが森先生を尊敬している人たちだなと思った。私もこれからゼミを通じて森先生のことをよく知り、みなさんのような大人になりたいと思った。みんなで分担して効率よく準備ができた。書籍の販売の時は、笑顔を作りあいさつを自分からできたと思う。

(K生)

今までにない混雑が起きた日に、金沢までお越し頂いて、ありがたい気持ちでいっぱいでした。十数年間の学校生活を経ています、本田先生のゼミ授業も含め、とても貴重な時間であり、いままで受けてきた授業がこんなお話だったら：と思ってしまうところがあります。私たちが感謝をしなければならぬ立場であるにもかかわらず、ありがたうの言葉をかけてくださり不思議にさえ思っていました。素直にこんな人になりたい、こんな考え方がしたいと思いました。聞いた話の中には、直ぐにでも実践できることがたくさんあったので、早速行動しています。が、まだ靴を揃えることを忘れることがあります。その度に「女性として恥ずかしいな」と思うようになりました。気付かないうちに

手が動いていることが目標です。また人前に立ち、話すことは苦手なので不安で仕方ありませんでしたが、先生方のお話を聞いているうちに、本田先生から学んでいることを私も伝えたいと感じましたし、感謝を伝える場面に立たせて頂いたことが、とてもありがたかったです。感じられ緊張の元、とても良い経験ができた、心から思っています。このような機会を与えて頂けて本当に良かったです。

(A生)

みなさんが講師の先生方を尊敬している姿勢がすごく伝わってきました。それに先生方と参加している人たちが顔見知りの人かな？と思う人たちがいたので、金沢までついてきて凄いなと思いました。それほど先生方の話は心にしみる素晴らしいものがあるんだと思いました。研修会を行うに当たって、私はみなさん方を迎えるという役割をしました。その方々にほめられたりしたので印象を良いものにできたと思いますし、自分も人を迎え入れるということをあまりしたことがなかった、良い経験になったし、喜んでもらたことが何より嬉しかったです。遠いところからわざわざお越し頂いて、貴重な話も聞けたので良かったです。

(K生)

本田先生のゼミの際にもやらせて頂いていた「立腰」本当はあまり真剣にはやっていなかった。けれど参加されている方々全ての方が、あたりまえのように立腰が大切だと思っていることに驚きました。質疑応答の際に、娘が父親と話すのは恥ずかしい。と話が出ていました。それはいつも居てあたりまえだと思っているからこそこそ避けたりするものだと思います。私には父親がいまいません。小さい頃に離婚して、いまではどこにいるかも分かりません。あたりまえのように父親がいる人たちがほとんど父親を避けますが、私にはそれが理解できません。あまり父との思いではないけれど、父が大好きです。会いたいです。父だけでなく、全てのひとと一緒にいられること、出会えたことはあたりまえではあります。これからもあたりまえではない出来事、出会いに感謝し、いま自分の人生の中で携わってくれる人に感謝して、過ごしていきたいと思いました。

(次号に続く)

《寺岡 賢先生の講話をお聴きしての考察》(抄録)

(Y生) 「自分の国のことを知らないで、外の国のことが分かるはずがない」というお話がありました。本当にその通りだと思いました。日本で生まれ、日本で育っているのに私は日本の歴史を詳しく知りません。恥ずかしいと思いました。これをきっかけに、いまからでも知っていききたいと思います。いままでに聞いたことのない言葉なども分かりやすく、たくさんの方の言葉の意味を学ぶことができました。

(O生) 「花を摘むより種を蒔け」初めて聞いた言葉でしたが、幸せなことを望んで花を集めるならば、努力するのと同じように、まずは花の種を蒔けとっていました。とても良い言葉だと思いました、その通りだと思いました。「世直しは余直しである」「子どもは親の鏡である」「ありがたの反対はあたりまえである」「他にもいろいろ初めて聞いた言葉を学ぶことができて、貴重な体験をありがとうございました。」

(S生) 私は寺岡先生の親身になって話してくれる姿から、人間学から伝わるすばらしさを感じ、学ぼうとする姿勢で吸収する量も変わるし、初めはどうして大人になって、このような学習塾というものに入り学んでいるのか疑問でしたが、お話を聞いてみて、その謎も解きました。人間と生まれた定めというよりも、人間の内側にある汚れない心を、掘り起こしてくれる学びだと、感じました。

(M生) 日本の歴史を知って初めて本当に、日本に誇りを持つ“ことではないのかなど、強く感じましたからには、日本の建国記念日(二月十一日)を覚えて、口だけにしたくないと思いました。次に日本独自のやまと言葉の美しさを知り、美しく使いたいな。と感じました。日本語の五十

音には一つひとつ意味があるという話を聞いた時に、より強く感じました。私たちが日本をもっと発展させたいと願うならば、まずはもっと日本を知るべきなのだと感じました。

(I生) 演題を目にした時、正直神話から日本の心にどうつながるのかイメージが付きませんでした。寺岡先生のお話を聞くにつれて、徐々に神話から読み取れる日本という国の本来の姿を知ることができました。これまで知ることのなかったことを知ることが、逆に私は日本という国を日本人でありながら、本当に理解できていなかったことも知りました。今日先生から教わった学びを活かして、日本人として誇りを持って生きていき、親となつた時に子どもに語り継ぎ、女性としての役割を理解し、生きていきたいです。本当に為になり勉強になりました。

(A生) 私は少し外国について興味があります。でも、自国のことについてなにも知らないで、ただ恥ずかしいだけだと思い、自国のことを少しでも知ることが必要なんだと思いました。

次には、二十七代遼と先祖は一億もの人が関わっていることが分かりました。最初まで遼と、全ての人につながることも分かりました。凄いいことだと思いました。日本神話によって形づくられた日本の国柄、神嘗祭を始め、代々の天皇が国民の幸せを一心に祈念する命がけの御神事など、戦後の日本人には知られてこなかったこと、その理由として敗戦国の定めとして、戦勝国によって日本の歴史が書き換えられてしまった為、私たちは自国の伝統や精神性について、意図的に伝えられてこなかったことなど、いろいろなことについて知りました。

(次号に続く)

《寺田一清先生の講話をお聴きしての考察》(抄録)

(M生) お話を聞いて、人との出会いは「一期一会」だと最初に感じました。何か選択する際に、誰に出会うかまでは決めることができないし、その人が自分に与える影響は未知です。森先生に感銘を受けて自然と集まりこのような会を開いてくださいました。本田先生のゼミを取った時には、このようなみなさんのお話を聞いた、話したりする貴重な体験ができるなんて、思ってもいませんでした。寺田先生のお話の中には、本田先生に教えて頂いたことがたくさんあったので、復唱しながら聞いていました。寺田先生のお話はエネルギーがすごかったです。元気で活躍できることを心から願っています。

(D生) 寺田一清先生は、あ・す・こ・そ・はにあてはまる言葉を大切にしようとしていることを知りました。また、誰よりも先にあいさつをしていることも知りました。だから私も、あいさつをもっと大切にしていこうと思いました。短大生になっても変わっていない悪い部分がまだまだあると思うので、この講話を聞いて、一つひとつ正す意識をしていこうと思いました。親から受けた恩の有無厚薄を問わぬ。父母即恩である。この言葉を聞いて私は、あたりまえのように親にわがままを言っていて迷惑をかけているな。と、恥ずかしいと思いました。私はまだまだ甘い人生は二度とないもので、いまの生活をもっと充実し、後悔のない人生を送りたいと思います。

(I生) 寺田先生は、本当に森先生のことを尊い、大切にしている方だと思いました。心に残った言葉は、「親から受けた恩の有無厚薄を問わぬ。親即恩である」という教えが印象的でした。親から受けた恩がたくさんあるとか少ないとか、そういうことではなく、父母がいるというそれだ

けで恩なのだということ。父と母がいなければ、いまここに私という人間はおらず、それは皆同じである。だからこそ親を敬うことが大切だということ。とても大切だと思います。私も、「三つのしつけ」を日常生活の中で、忘れがちではありましたが、気がつけば使ったイスを戻したりといったことを、するように心がけています。

(Y生) 本田先生からも教わった「三つのしつけ」をまた学べて良かった。人間の生き方の基本ということが分かったので、これからこの「三つのしつけ」気をつけて生活していきたい。「鏡笑法」という鏡を見て笑顔を作る方法は、とても良いと思っていた。自分ではしつかりと笑顔を作っている気分でも、周りから見ると、笑顔が不自然だと意味がない。そこで鏡を見ることで、よい笑顔がつくれるので、私もこれから実践していこうと思う。

(K生) 寺田先生のお話を聞かせて頂いて思ったことは、私も森信三先生にお会いしてみなかったということです。直接お話を聞いてみたかったと思いました。寺田先生と森先生の出会いや、何となくですが感じ取った森先生の人物像が見えてきたり、とても面白かったです。人との出会いというのは、人生をも変えてしまうことがあると思います。このことをあらためて考えさせられました。どんな人との出会いも、その時の自分に必要であったり、成長するきっかけとなったりします。無駄な出会いというものはないと気付かされました。「三つのしつけ」あらためて大切だと思いました。人としても女性としても素敵になるために必要だと思いました。

(次号に続く)

人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早すぎず。一瞬遅すぎない時に――

(森信三)



金沢都ホテルでの懇親会





鈴木大拙館



日本アルプスを望む



観光ガイドさん？いえいえ塾生の西田さん



長町武家屋敷跡



ふる里偉人館玄関

雨の多い金沢で、みなさん日頃の実践が良いのか快晴に恵まれた一日でした。

《お薦め書籍》

『東井義雄 一日一言』

東井義雄 著



発行 致知出版社

価格 一・一三四円(税込)

ISBN13:978-4884747992

東井義雄先生は生涯を教育に捧げた「伝説の教師」である。「いのちの教育」を信念とし、いのちの不思議と大切さを説いた。国民教育の師父と言われた森信三先生は、東井義雄を評して「わが国現下の教育界の実情をかえりみる時、まさに『国宝』の名に値しよう」という言葉を寄せている。「子どもは生きている。教師はそのいのちにふれないで教育はできない」教育は、教師と子どもが向かい合い、ふれあつてこそ成り立つ。その基本を徹底的に追究した教師の鑑である。

(HP書籍紹介より)

《先哲に学ぶ》

佐藤一斎先生

自分に厳、他人に寛

自ら責むるに厳なる者は、人を厳なるも亦厳なり。人を恕するに寛なる者は、自ら恕するも亦寛なり。皆一偏たるを免れず。君子は則ち躬自ら厚うして、薄く人を責む。

《訳》

自分の失敗を自ら責める人は、他人の失敗も厳しく責め、他人の失敗を寛容に思いやる人は、自分の失敗も寛容に思いやる傾向がある。厳格と寛容の違いは、あつても、一方に自らを責めるのに自らを責めるのに厳しく、他人を責めるのに寛容なのである。

《五月 人間学塾・中之島》

■基本カリキュラム

*日時 5月9日(土)

*場所 大阪大学中之島センター

10F 佐治敬三ホール

*講座 瀬戸謙介先生

「空手指導を通して

見える子どもたちの成長」

一九四六年に生まれる。獨協大学経済学部経済学科卒。一九七四年から二年間、社団法人日本空手協会ハワイ支部及びハワイ大学にて空手指導。一九七八年 社団法人日本空手協会目黒支部瀬戸塾を開設現在 瀬戸塾塾長。公益社団法人日本空手協会師範会会員。『空手道・技術資格教本』(日本空手協会東京本部)『子供が喜ぶ論語・子供が育つ論語』(致知出版社)二〇〇ほか著書多数

《郊外学習へー参加ください》

今期の郊外学習は、四月二十九日(祝日)

「東井義雄先生のふる里を訪ねて」を企画いたしましたので、多数のご参加をお待ちいたしております。

場所 兵庫県豊岡市但東町

・東井義雄記念館

・東井義雄先生生家「東光寺」訪問

講話 東井浴子先生

寺田一清先生

(予定) 出石町探訪

昼食はー 出石皿そば御膳

出石城跡↓辰鼓楼↓城下町散策

参加費 塾生 八,五〇〇円

聴講 九,五〇〇円

(現地へ直接参加の場合)

塾生 三,五〇〇円

聴講 四,五〇〇円

アクセス 往復 大型観光バス利用

近鉄難波ビル前

集合 午前8時45分

出発 午前9時00分

《淀川掃除に学ぶ会》 短信

世話人 小西勝人

四月五日定例の淀川掃除は、朝から雨にも拘らず四十一名参加。その内淀川工科高校野球部員二十三名が、特別参加してくれて元気いっぱい河原に向いました。

掃除時間をいつもより一時間早めて終了。ゴミ拾い中は、雨に降られず神吉会長の「川の神様が雨を降らさないようにしてくれた」との言葉に全員納得する。

最後に三名の野球部員に実践感想を話してもらいました

問合せ 〇九〇ー一八九四ー一七六五(小西)

〇九〇ー七五五五ー八七七七(志村)

